

抗肥満薬の肥満以外に対する効果

グルカゴン様ペプチド 1（GLP-1）受容体作動薬（以下、GLP-1 薬）として知られる新しい抗肥満薬は、アルコールやたばこをはじめとする多くの物質に対する渴望と嗜癖を抑制することが明らかとなりました。

この他にも、心血管疾患や慢性腎臓病患者における死亡リスクや脳卒中・心臓発作のリスク低減、睡眠時無呼吸症候群の症状緩和、パーキンソン病の発症を遅らせる可能性、脂肪性肝疾患、アルツハイマー病や認知機能障害、HIV 合併症などに対する効果などが明らかとなっています。